

家畜衛生だより 平成 28 年 7 月号

紀北家畜保健衛生所

電話 073 - 462 - 0500

紀南家畜保健衛生所

電話 0739 - 47 - 0974

紀南家畜保健衛生所 東牟婁支所

電話 0735 - 58 - 1481

牛ウイルス性下痢・粘膜病 (BVD-MD) の国内での感染が増加しています

牛ウイルス性下痢・粘膜病 (BVD-MD) は、近年、国内飼養牛における発生が増加傾向で、全国的なまん延も危惧されています。本病の防疫対策を効率的に進めるため、生産者、獣医師、関係機関が本病に関する正しい知識を共有するとともに、生産者が対策の内容を十分に理解し、納得した上で、地域一体となり複合的な対策を推進することが必要です。

【国内の発生状況(牛)】

出典:家畜衛生週報

| | 平成 21 年 | 平成 22 年 | 平成 23 年 | 平成 24 年 | 平成 25 年 | 平成 26 年 |
|----|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 戸数 | 68 | 77 | 118 | 118 | 120 | 134 |
| 頭数 | 106 | 104 | 228 | 189 | 228 | 259 |

牛ウイルス性下痢・粘膜病 (BVD-MD) について

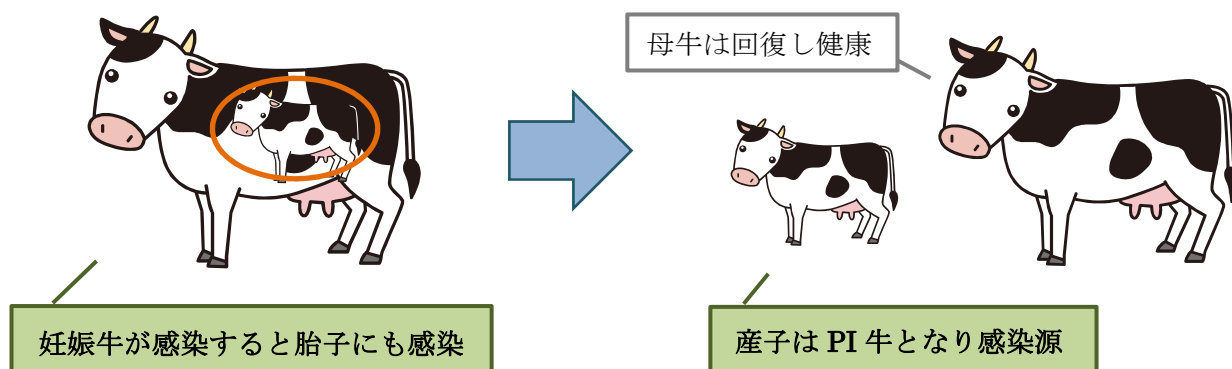
BVD ウイルスの感染により、牛に下痢、呼吸器病症状、繁殖障害を起こし、特に妊娠牛では、異常産(流産や胎子奇形)を起こす届出伝染病です。感染は一過性でしばらくすると回復します。しかし、妊娠牛に感染した場合、異常産を引き起こす以外に、**特有の持続感染牛(PI 牛)**が生まれることがあります。

持続感染牛(PI 牛)とは

妊娠牛(**胎齢約 30~150 日**)が BVD ウイルスに感染すると、胎子が PI 牛として生まれる確率が高くなります。

PI 牛は一見健康にみえてもやがて発育不良になり、鼻汁や糞尿等に**常時多量のウイルスを排出**し続け、本病の**感染源**となります。牛群内に PI 牛がいるとその農場はもちろん、近隣地域全体に感染が広がります。

PI 牛からは**必ず PI 牛が生まれ、有効な治療手段はありません。**



では、どうしたらいいのか？

- **まずはワクチン接種をして感染を予防しましょう**

BVD-MD は、ワクチンを接種すれば高い予防効果が期待できます。ただし、妊娠牛への生ワクチンの接種により胎子が PI 牛となる場合や、免疫が交差しない複数の遺伝子型が存在する場合があるので、ワクチン接種に当たっては、用法、用量及び使用上の注意を厳守して使用します。

- **PI 牛を農場へ入れないようにしましょう**

PI 牛自体が入ってくる場合と、PI 牛を妊娠した牛が入ってくる場合等があります。外部から牛を導入する場合は、ワクチン接種状況等を確認してから導入し、必要があれば導入時に検査を実施しましょう。

- **検査をしましょう**

PI 牛が見つかったら、その牛を淘汰するとともに、同居牛に感染していないか、PI 牛がないか必ず確認しましょう。また、販売する場合は、他へ感染を広げないために、できるだけ検査で陰性を確認の上、販売しましょう。

また、農林水産省 HP においても、牛ウイルス性下痢・粘膜病に関する情報が紹介されていますのでご参照ください。

⇒ http://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/bvd_md.html

気になることや不明な点がありましたら、最寄りの家畜保健衛生所までお問い合わせください。